



市民向け公開講座の運営と 公共サービス民営化の受託

NPO法人ふれあい塾あびこ 副理事長 多田 正志



我孫子市は千葉県北西部にある人口約13万6,000人の街です。都心まではJR常磐線で1時間以内であるため、昭和40年代から、東京のベッドタウンとして人口が急増しました。その結果、平成10年前後から、定年退職を迎える人が増加し、サラリーマンの給与所得による個人住民税への依存度が高い市の財政事情が厳しくなる一方、高齢化対策など新しい行政課題が増えています。

当法人は、市内在住のシニア世代の男たちが、このまちの3番目のNPO法人として、平成12年に設立しました。以来12年、シニア世代を中心とする一般市民向けの生涯学習講座「ふれあい塾あびこ」を毎年約70回開催してきました。また、我孫子市が平成18年に打ち出した「提案型公共サービス民営化制度」に応募して、平成19年度からは、我孫子市公民館の市民カレッジ「我孫子を知る」コース（年間12回）を受託運営しています。

「ふれあい塾あびこ」は、ベッドタウン市民、特に定年退職して、地域に帰ってくるシニア世

代には、近くで、簡単に、安く受講できる生涯学習システムのニーズが高まるとみて、平成12年9月に開塾しました。以来、春、夏休みなどを除いて毎週月、木曜日、年間70回前後の開催回数を重ねて、開催講座総数は近く900回に達します。受講者も順次増加し、時には100人を越す講座もあって、最近の年間延べ受講者数は3,000人以上となっています。

講座のテーマは、地元我孫子市の歴史・我孫子市ゆかりの人物などの紹介、古典から近現代作品までの文学講座（写真1）、日本



(写真1)



(写真2)

史・西洋史など歴史の解説、政治・経済・国際問題などの解説、演奏者の解説付きのレクチャーコンサート（写真2）、話題の美術展見学、専門医による医学講座、相続・財産管理、悪徳商法その他の生活の知恵に関する講座などと幅広く、受講者からのアンケートも参考に、毎月、新しいテーマの講座を企画し、メールや郵送で参加案内を発信しています。

講師は、当初は市内、常磐線沿線の有識者中心でしたが、逐次、首都圏全般に広がり、時には海外在住の方が帰国した時にお願いする特別講座などもあります。これまでにご登場いただいた講師は200人を越し、大学の教授、講師クラスの講師が半数近くになっています。受講者の希望で、連続講座を受け持っているにいたっている講師も増えています。

講座の企画、当日運営などは、当法人の運営スタッフ約10人が、交通費程度のボランティアベースで役割を分担、時にカバーしながら当たっています。講師謝礼、会場費、講座日程送料などの基本運営費は、受講者1人1講座当たり700円の受講料でまかっています。この受講料は、年金生活の方などには、決して安くない金額ですが、毎回参加される常連の受講者も増えており、シニア世代にも、品質さえ確かなら、知恵のリングの買い手は多い、ということを実感しています。

この生涯学習の分野では、県、市その他いわゆる公の無料講座、無料コンサートなどが依然として多く、これら公共機関のような会

場の優先確保、広報手段を持たない民間の生涯学習システムには大きなハンディキャップがあります。とりわけ会場確保は悩みの種で、毎月抽選のあちこちの公設会場に申し込み、当選をまって講師と交渉する、といった厳しい講座企画が続いています。

しかし、私どもは、いわゆる「新しい公共」の時代には、なけなしの税金による公の生涯学習講座は、地域社会が必要とする人材養成、知識習得など、社会貢献型、いわば「世のため、人のため」の講座にシフトし、個人の趣味や教養など自己充足型、つまり「自分のため」の生涯学習は民間が担当してゆくべきではないか、という思いを持ちながら「ふれあい塾あびこ」の運営を進めてきました。

我孫子市公民館の市民カレッジ「我孫子を知る」コースは、このような思いのもとで、「ふれあい塾あびこ」の運営経験、講師陣などを生かして、我孫子市の「提案型公共サービス民営化制度」に応募し、受託したものです。

同制度は、「新しい公共」のさきがけとして、我孫子市が、平成18年3月、全国市町村で初めて第1回募集を開始しました。その基本的枠組みは、市の担当している1,100余りの公共サービスの概要、事業費などを公表し、市民活動団体、企業などから、現在のサービスを上回る委託・民営化提案を募集し、しかるべき提案は審査委員会の審査を経て民営化する、というものです。

当法人は、この1,100余りの市の公共サービスのリストの中から、我孫子市公民館の市民カレッジ「文学・歴史」コースを取り上げ、①文学、歴史だけではなく、市の現状を説明する講座をカリキュラムに加えて「我孫子を知る」コースと改称し、地域活動などの動機づけを図る②最少開催人数制を導入する③企画、運営費用を引き下げる一などを提案、第1次採用34件の一つとなり、このうち19年度から実施した第1陣3事業の一つとなりました。

以来5年間、毎年度36人の定員をほぼ確保して、5月から12月までに12回の講座を開催し、前半では我孫子市の歴史や、志賀直哉など我孫子市ゆかりの文人の講座を、後半では、市の現状、行政改革や市民活動の現状、市民活動団体の紹介、最後には締めくくりの話し合い（写真3）などを行い、地域活動への参加呼びかけをしています。すでに毎年度、この講座修了生は同期生グループを作り、学習の継続などを行っています。今後は、この講座に、我孫子市の市民活動インターンシップ制度（市民団体への体験参加）を組み合わせ



（写真3）

るなど、さらに地域活動への動機づけを強めることを検討しています。

この我孫子市の提案型公共サービス民営化制度の募集は、3年半の中断の後、平成22年6月から再開されました。一方、国政レベルでも、鳩山内閣が「新しい公共」を政策の柱の一つに取り上げるなど、深刻な財政事情などを背景に、公共サービスの官民分担の在り方が、本格的に検討されようとしています。しかし民、特に市民団体には、担い手不足などで、そこまで手が回らない団体が多いなど、実現には多くの課題があります。本法人の「ふれあい塾あびこ」にも、市民カレッジ「我孫子を知る」コースにも、いろいろな課題がありますが、より安定した公共の担い手を目標に、仲間と課題解決に取り組んでゆくつもりです。

なお、当法人のホームページは <http://www.geocities.jp/masaruaiizu/>

ブログは <https://www.voluntary.jp/weblog/myblog/516>

毎回の講座概要を収録しているブログは、毎日のアクセスが500～1000回以上というアクセス数になっています。